

5年 わたしの地図活用

食料生産と輸入

～私たちの未来の食卓は？～

岩手県盛岡市立緑が丘小学校 佐瀬 智洋

1 はじめに

近頃、ニュース等で「食の安全」という言葉を毎日のように聞く。安全で安心な食べ物の確保ということは、今日の社会において大きな問題となってきている。そこで、食料生産と輸入について、食料自給率を中心に学習を組み立てた。

2 もしも食料の輸入がストップしたら

はじめに、『楽しく学ぶ小学生の地図帳(初訂版)』(以下地図帳)p.59①の食事の絵を取り上げ、この資料から

食料の輸入について考えさせたい。

○ある日の食事

(地図帳p.59①)

○輸入分をのぞいて量が少なくなった同じ献立の食事(上記の絵を参考に自作)



『楽しく学ぶ小学生の地図帳(初訂版)』p.59①

「この食事は、あることが起こると、このように量が少なくなります。起こったことは何でしょう。」と問いかけ、食料の輸入がストップすると同じ献立の食事でも量が少なることを、以前学習した野菜や魚介類が輸入されていることと関連させながら教える。子どもたちは輸入がストップすると同じ献立の食事でもこんなに減るなんて…と驚きをもって見るだろう。

3 日本はどのくらい食料を輸入しているか

次に「日本はどのくらい食料を輸入しているのか?」という疑問をもたせ、食料輸入について調べさせたい。

○日本の食料輸入額の割合と変化

(教科書 教育出版『小学社会 5年上』p.50)

日本の1年間の食料輸入額は、約5兆3千

億円(国民1人あたり約4万円)になること、魚介類が一番多く輸入され、肉類と合わせると食料輸入額の半分を占めること、食料輸入額は年々増加していること等に気づかせたい。

そして、「食料の輸入が増えているわけ」について教科書を中心に調べさせ、食料の輸入が増加しているのはさまざまな理由があることに気づかせていきたい。

4 日本の食料自給率の現状

ここで子どもたちに「自給率」という言葉を教え、地図帳p.59②～④を見ながら、日本の主な食料の自給率の現状と変化をもとに調べさせる。

○②日本各地の農業

○③日本各地の水産業

○④日本のおもな食料

の自給率の変化

日本では、各地でたくさんの種類や量の食料を生産してい

るにもかかわらず、輸入は増え続けていることに着目させ、私たちの食生活の実態(グルメ志向等)や諸問題(残さいや廃棄する量の多さ等)にも迫らせ、問題点へとつなげていきたい。

④ 日本のおもな食料の自給率の変化



『楽しく学ぶ小学生の地図帳(初訂版)』p.59④

5 食料自給率が低いことによる問題点

外国からの食料の輸入に頼ることの問題点を考えさせ、それらを以下の観点に沿って調べ、まとめさせる。

○安全(遺伝子組み換え食品、残留農薬)

○健康(栄養価、加工食品の増加)

○環境(輸出国の環境破壊)

○資源(食料資源の無駄)

6 おわりに

食料生産について学習することで、それが持つ多くの側面に気づかせ、さまざまな角度から子どもたちに考えさせることができる。

地図帳という窓口から世界の国々とのつきあい方に目を向けさせ、将来の自分たちの生活についても考えを広げさせていきたい。